

3月6日 四旬節第4主日

いなくなっていたのに見つかった

ルカによる福音書 15章 1～3、11～32節

¹徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。²すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。³そこで、イエスは次のたとえを話された。

¹¹また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。¹²弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。¹³何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。¹⁴何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。¹⁵それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。¹⁶彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。¹⁷そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。¹⁸ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。¹⁹もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください』と。』²⁰そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。²¹息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』²²しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。²³それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。²⁴この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。²⁵ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。²⁶そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。²⁷僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』²⁸兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。²⁹しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。³⁰ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』³¹すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。³²だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』』

他の朗読：ヨシュア 5:9～12 詩編 33:2～7 IIコリント 5:17～21

Lectio…読む

このたとえは、神の愛と慈しみを説明するものとして最もよく知られているものです。イエスの罪人への愛は、御父である神の愛に根ざしていることを示しています。

物語は、下の息子の財産の浪費、屈辱、悔い改めと、家へ帰るというリスクを伴う決断を駆け足で描いています。

父親はこの息子の帰りを喜んで迎え、祝うために宴会を開きます。長男は反対に、父親の寛大な赦

しに憤慨するのです。

Meditatio…黙想する

二人の息子が直面している、それぞれのチャレンジについて、リストを作ってみましょう。

どちらの息子の気持ちをあなたはより理解できますか。この箇所は、あなたに何を伝えているのでしょうか。

父親の行動から私たちは何を学ぶことができるでしょうか。

Oratio…祈る

祈りながらⅡコリント5章17～21節を読んでみましょう。何を祈るべきかを聖霊に求め、その導きに応えましょう。

Contemplatio…観想する

父親の両方の息子に対する大きな愛を考えてみましょう。それから、あなたに対する神の愛と慈しみを考えてみましょう。